



扉【とびら】

宇部市立藤山中学校
10月号
2020.10.28発行

『大したものだ』

校長 海 頭 巖

文化祭テーマ：『Let's 青春～強く長く輝き続ける永遠の光～』
体育祭スローガン：『コロナに負けない夢現の力 one team』

コロナ禍ということで、10/24（土）に文化祭、10/25（日）には体育祭を開催し、『藤中祭』と銘打った初めての試みは成功裏に終わりました。コロナ禍で制限が多い中、自由度をしっかりと発揮して『力を出し切った藤中祭』にしてほしいという私の願いは十二分に叶えてもらえました。改めて述べさせていただきます『大したものだ。感動した。ありがとう。』と。

何でもそうなのですが、『出し切る』ということはとても気持ちが良いものです。それは出し切ったことがある者にしか分からない『爽快感』や『達成感』、『成就感』などの味わいです。今回の『藤中祭』ではほとんどの生徒がそういった思いを味わえたことと思います。

『感動』は双方向です。歌を歌っている人、演技をしている人、係の仕事をしている人、それぞれが自分の役割に心を込めて取り組むことで得られる『感動』は、それを観ている人にも、深い『感動』を与えてくれるものです。「歌いたい、うまく歌いたい、気持ちよく歌いたい。」そう願う気持ちを大切にしていってあげた自由曲。そんな思いで歌われた『歌』そのものでさえ、生徒の皆さんにきくと感謝してくれているはずです。『感動』って、何年経っても、色あせないものです。まさしく文化祭のテーマ『強く長く輝き続ける永遠の光』に繋がっています。

さて、『音さ』という言葉を知っていますか。音の振動数が同じ『音さ』は共鳴し合います。片方の『音さ』をたたき、振動が弱まった頃に隣の『音さ』をたたくと、音が共鳴し合って、弱まっていた『音さ』の振れ幅がまた大きくなります。これを『共鳴振動』といいます。これは人間にも当てはまると思います。誰か一人が元気を出せなくても、誰か一人がいい響きを発してくれたら皆がその響きに共鳴して更に大きいエネルギーの振れ幅になっていくと思います。それが今回の『藤中祭』だったような気がします。皆で同じ目標をもって『共創（共に創る）』し合う姿勢が表れていたと思います。特に三年生にとっては、『一昨年の雨天の中での体育祭、後日第二段開催。去年は強風によりテントなしでの体育祭。今年はコロナ禍で自由を制限された中での開催。』と、この三年間、体育祭は特に思うに任せない状況でした。しかし、それにもかかわらず生徒会と吹奏楽とのコラボ企画。聖火ランナー、ジーフの登場。ジーフ体操の披露。四隊による工夫を凝らし味のある応援合戦。どれをとっても感性和知恵を出し合ったものでした。

今、生徒の皆さんは豊かな創造性を備えた持続可能な社会の担い手となることが期待されています。そこで学校や社会では生徒に『生きる力』を育むことを目指しています。今回の『藤中祭』のように変化を生み出さないといけない状況の中『皆で知恵を出し合った創造的なアプローチ』が夢を実現させていく『夢現の力～one team～』と『生きる力』に繋がったと確信しています。